

Topics

歴史の街に音楽があふれだす……

# “城下町大村秋の音楽祭”が始まります!



♪ 昨年の富松神社でのコンサートの様子

今年も9月12日から11月21日までの71日間、大村市内の名所などで音楽祭が開催されます。

OMURA室内合奏団もその中で4つのコンサートに出演、さらにファイナルには、国際的に活躍の弦楽四重奏団「上海クアルテット」との共演も予定しています。

芸術の秋、生の音楽に触れるのはもちろん、大村の秋を感じにいらっしゃいませんか。

詳細はお送りしているリーフレットをご覧ください。

## おすすめ1 9/12(土) オープニングは“シーハットおおむら”から。「おおむら Sunset Live」

シーハットおおむらのギャラリーを会場にお届けするオープニング。開放的な空間でのライブは毎年大好評。今年は、OMURA室内合奏団フルート奏者の永留結花さん率いる「Dejima quartet」が初出演します。時間とともに変化する大村の美しい空と合わせてお楽しみください。

(雨天時は中止。)

## おすすめ2 9/17(木) 秋に届ける“Jazzの調べ”。「長崎医療センター ロビーコンサート」

今年の6月から春夏秋冬、年4回のシリーズで開催している長崎医療センターでのロビーコンサート。音楽祭期間の秋は、Jazzの調べを特別アレンジでお楽しみ頂きます。一般の方もご入場頂けますので、お気軽に足をお運びください。

## おすすめ3 9/27(日) 月と音楽のコラボレーション。富松神社「中秋の名月コンサート」

大村市民に「とんまつさん」の愛称で親しまれる富松神社では、今年も屋外の神楽殿を会場にコンサートを開催します。月にちなんだ名曲や秋にちなんだ唱歌などを、しっとり、時に楽しくお届けする予定です。(雨天時は本殿での開催を予定。)

## おすすめ4 10/24(土) 湖のほとりのカフェ&レストラン「野の実」、 そして 11/21(土) ファイナルコンサート!

今年も、自家製リングを使って焼き上げたアップルパイが大人気のカフェ&レストラン「野の実」にお邪魔します。緑に囲まれた森の中でのコンサートは癒しの時間になること間違いなし。

そして、音楽祭のフィナーレを飾るのは上海クアルテットの日本ツアーです。OMURA室内合奏団も18名の弦楽アンサンブルで共演。どのような音色が響くのか。必聴です。



● 6/11(諫早商業高校) ● 6/16(諫早農業高校) ● 6/17(諫早東高校) ● 6/23(諫早高校)

暑い日が続きますが皆様お変わりありませんか?僕は最近原稿を書くことが多く、皆様に飽きられているのではないかと心配しているところです。

合奏団が力を入れている活動の一つにアウトリーチがあります。これはアーティストがホールを飛び出し、学校や病院などを回り、普段なかなか生の音楽に触れることの無い方々に音楽の面白さをお届けする、出前コンサートのようなものです。今年も長崎県教職員互助組合主催のアウトリーチコンサートに出演しています。県内16の中高に何う事になっていて、6月には諫早市内4つの高校にお邪魔しました。

合奏団アウトリーチの面白いところは、演奏だけでなく運営も団員で行っているところです。毎回公演の後に反省会があるのですが、演奏だけではなく司会進行や譜面台の位置など、細かいところまで団員で考えながら進めています。またヴァイオリンとチェロの体験コーナーも魅力です。団員が教えるとなると1分で生徒たちも弾けるようになってしまいます!それに校歌の



コーナーも喜ばれています。普段はピアノ伴奏で歌っているものが、この日はオケストラ!弦の響きにうっとりです。

生徒達のキラキラした瞳から、音楽の楽しさを逆に毎回教えてもらっています。10月には上五島にも伺います。島のおいしい魚、じゃなかった、キラキラした瞳が楽しみです!

かめこ まさたか  
亀子政孝(コントラバス)次回  
公演

●10/26~10/30:上五島の有川中、奈良尾中、上五島高校、魚目中、北魚目中、中五島高校  
●10/31:西海市の西彼杵高校 ●11/10~11/13:西彼農業高校、大崎高校、大村高校、西陵高校  
●11/18:大村工業高校 に伺います♪

● 7/25(土)~7/26(日) 新国立劇場

二回目の公演を終え、興奮覚めやらぬ帰りの飛行機の中でこのレポートを書いています。

7月21日に劇場へ入りリハーサルが始まり、あつという間の6日間でした。

上京初日から満員電車の洗礼にあい、チェロの田辺氏と恋人の様にくっ付き合い、顔と顔が15cmの至近距離で会話を楽しみ、乗り換え案内のアプリを見ながら電車を

乗り継ぎ損ね、ホテルのルームキーで駅の改札を突破しようとしせき止められつつ東京を満喫しました。

冗談はさておき、長崎に住む者として「原爆」「平和」は欠かすことの出来ない大切なテーマです。演奏家の立場として演奏を通して世界に平和を訴えることのできる今回のオペラは、とても有意義でありがたい機会でした。これからも合奏団の皆と世界の恒久平和を祈り演奏を続けていこうという思いを新たにしました。

二度と世界のどこかに原爆が落ちないように「オチ」は付けずに締めくりたいと思います。「世界中に、いつも太陽が明るく輝いていますように!」

たねくち たかあき  
種口敬明(ファゴット)

♪オーケストラピットでの一コマ

## 芸術監督だより

## 音楽は世界を結ぶリボン



来る11月21日、上海クアルテットがまたやってくる。公演のチラシを見て、セカンド・ヴァイオリンのイーウェンだけがおじさんになっているのは何故?ウェイガンもホンガンもニックもほとんど変わっていない。それぞれ結婚して子供もいると言うのに。

来る11月21日、上海クアルテットがまたやってくる。

初めて彼等、といってもニックは別だが、に会ったのが1996年、上海クアルテット日本初公演の時。大阪のフェニックス・ホールだった。

2000年、私が館長に就任前、最初の大村公演はチェロがジェイムス・ウィルソンだった。ニックと交替した時、丁度「ミュージック・オブ・ザ・ハート」という、メリル・ストリープ主演の映画があって、それは、ハーレムでヴァイオリン教師をしているニックの母上がモデルだった。イヤ、光陰矢の如し。最初の出会ってから約20年。OMURA

室内合奏団も設立12年目を迎えている。去る5月27日、東京・紀尾井ホールでの自主公演に引継ぎ、7月25日、26日は新国立劇場で、オペラ「いのち」のオーケストラを受け持って好評を博した。

経験を積み重ねた二つのグループが、今回はバルトークで共演する。コントラバス以外のトップに上海クアルテットのメンバーが入っての共演だ。

昔々その昔、というほどでもないが、高校時代に「音楽は世界を結ぶリボン」というタイトルでスピーチをしたことがあったが、半世紀以上音楽に関わってきた私にとって、更に声を大にして叫びたいこの頃だ。ハンガリー人バルトークの作品を中国、アメリカ、日本の若者(?)たちの熱演が、音楽に国境がないことを証明してくれるに違いない。

むらしま すみこ  
村嶋 寿深子

## 私とOMURA室内合奏団

vol. 5

まずは、OMURA室内合奏団の10周年、そして11年目の東京公演に団員として参加できた事をとても嬉しく思っています。

私が最初についたクラリネットの先生はオケマンで、事ある毎に「一回失敗すると次はないから」「仕事が終わると皆バラバラで口も聞かないよ」「とにかく挨拶をちゃんとしろ」等々、恐ろしいことを吹き込まれていました。プロのオーケストラって怖い所なんだ、近寄らんどこ!と、まだ楽器で仕事を始めたばかりの若い私は吹奏楽のレッスンやアンサンブルの本番に明け暮れ、大学の頃にどっぷり浸かったオーケストラの魅力に未練を感じながらも、かなり畑違いの音楽活動をしていた記憶があります。

OMURAが出来て数年後、弦楽器中心の編成から少しずつ今の室内合奏団の形に変わりつつある頃にお声かけ頂き、こわごわ参加させていただいたのが私が団員

になるきっかけでした。忘れもしない、MOZART40番の1楽章。たぶん何かポピュラーな公演だったと思います、いやーあの時は緊張した!だけど、演奏してて音が混ざり合うのがとても気持ち良かった。やっぱりオケって良いなあとと思った瞬間でした。ご縁がありそのまま団員となり今に至っています。心配していた「練習終わったら口も聞かない」なんて事はぜんぜん無くて、いつも和気藹々♡公私ともに仲良くさせてもらい、OMURAを通して音楽の幅も人生の幅も広がった感じです。これからまた10年、今度はどのように発展していくのか、私自身がどう成長していけるか、楽しみにしています。

ひぐち よしみ  
樋口 芳美(クラリネット)

♪ 音楽と私

子どもの頃から音痴がコンプレックス。音楽のテストで、1人で歌わなければならないのがとにかく苦痛でした。学生時代にはカラオケボックスのブーム到来。友人達は気持ちよく歌っていましたが、私はマイクを握ることができず、場を白けさせてしまったことも。

音楽を楽しむ要素の中で、最初に「歌う」ことでつまずいってしまった私。歌えない自分が恥ずかしく、音楽に親しめないままに過ごしていました。

でもそんな私と音楽との距離を一気に縮めてくれたのが、大学時代に出会ったミュージカルです。オケピがある生オケミュージカルの素晴らしいこと！役者さんとオーケストラ、観客が一体となって作り上げる舞台は、一期一会の出会いです。同じ楽譜、同じ台本でもキャストが違えばまったく異なる解釈になり、観客が変われば雰囲気も変わる…そ

こでやっと気づくことができました。

子どもの頃の音楽のテスト。「上手い」と「下手」のあるカラオケ。いつも私は「正解」の音楽を求めていたから、楽しめなかった。でも、音楽は毎回違って、毎回楽しい。それでいいのだ、と。

ずいぶん遅くにスタートした音楽と私のお付き合いですが、一度ハマってしまえば一途な私。劇場やキャスト違いで同じミュージカルに10回以上通ったり、観劇のためだけに東京日帰り遠征も当たり前！気がつけば、ゴキゲンで劇中歌を口ずさみ、ステップを踏んでいる…そんな自分に変わっていたのでした。



きたむら りこ  
北村 理子  
北村理子クリニック  
皮膚形成外科 院長



しゅうじ  
修爾くん

のドイツ便り



vol.2

皆様こんにちは、ヴァイオリンの藤木です。長崎はまだまだ暑いと思われていますが、いかがお過ごしでしょうか。こちらは7月末現在で夏も終わりを迎えており、外出時にはシャツに薄手のセーターを着用しています。

さて、先日喫茶店でドイツの友人と話していた際に、日本のお笑いに関する話題が出た時のこと。「スベル」という言葉の意味を説明したかったのですが、なかなか解ってもらえず困っていたところ、たまたま隣のテーブルについていたドイツ語の堪能な日本人が話に割り込んできて曰く、ドイツには「スベル」という概念が無い(正確にはスベルことはあってもそこに恥ずかしさは感じない)とのこと。常日頃からスベらないように気をつけて生活していた私は凄まじい衝撃を受け、それに関して考察することを余儀なくされました。そこで考える糸口として、くしゃみに焦点をあててみました。くしゃみの後、英

語圏ではBless you、ドイツ語圏ではGesundheit!、イタリア語圏ではSalute!と言い、それらはくしゃみの際に靈魂が抜けた状態の相手を気遣う返しであると言われていています。しかしその本質には、くしゃみ後の沈黙を避けるという目的があると私は考えます。誌上スペースの都合上、ここではある仮説を立てるところで締めさせて頂きます。その仮説とは、ドイツでは「スベル」という状態に陥ることはあるが周りが無意識にサポートしており、そのサポートまで含め一つの事象である、というものであります。

それでは皆様、次回通信までどうか御自愛下さい。



写真はデュッセルドルフ音楽大学のコンサートホールです。

ご支援ありがとうございます (8月20日現在) 法人会員数 65件 (+1件) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。  
個人会員数 179人 (±0人) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

編集後記

この夏は、子供たちと一緒に演奏する機会がたくさんありました♪教える側ではありませんが、みんなからも多くのことを学びます♪皆様はどのような夏を過ごされましたか☆ (さあり)

先日のミュージックキャンプで、とある男の子が僕もあんな弾きたい!と一生懸命先生の真似をして弾いてる姿に心を打たれました。きっとその子にとってなにか特別な日になったんじゃないかなあとジーンとしました^^ (いけっち)

今年の夏も暑かった。そんな夏の私の癒しは大村市野岳にある「シュシュ」のアイス。今年の夏は「アスパラ」味のアイスなんかもあってびっくり。秋に向けてどんな味が出るのだろう、と今から楽しみです。城下町大村秋の音楽祭が開幕しますが、大村は素敵なお店がいっぱい。音楽と一緒に、大村の秋を感じにぜひぜひ足をお運びください! (みき)